



# 学校だより 11月号

～豊かで調和のとれた子の育成～

たくましく生きる人 なかよく生きる人

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>



みのたなくん

## 子どもから学ぶ ～「特別な絵筆」～

副校長 井上 和浩

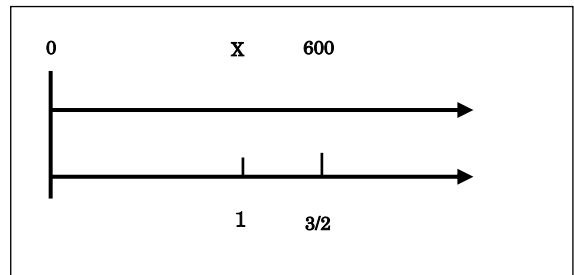
エピソードを紹介します。

教室を回っているときです。算数の時間でした。次の問題を考えている児童がいました。

「600円の絵の具セットがあります。この絵の具セットの値段は絵筆の $\frac{3}{2}$ 倍です。さて絵筆はいくらでしょう。」

ヒントとして数直線がのっていました。自分で数直線を書けるお子さんは、もちろんいます。教師は日頃から「図、線分図や数直線を使うと分かりやすいよ。」と毎日のように繰り返し声掛けをしていますので。つまり、「自分で数直線などを活用して求めることができる。」が目標の1つと言えます。数直線でなくても何らかの方法で正しい答えを導き出せばよいのです。ですから今回は少し優しい設定と言えます。逆に児童の考えを固定化してしまっているかもしれません。

わたしは、しばらく見守っていました。時間にして数分です。やがて、そのお子さんは式と答えを書き終わり、感想に進みました。900円と解答していました。普段、教室を回っている時は特に子どもたちには声をかけず、ただ見守るだけなので、今回もそのまま教室を後にしようかと思いました（勉強のじゃまをしてはいけませんので）。ですが、900円と導き出したわけを聞きたくなり、少し声をかけてみました。



「なるほど、がんばって問題を解いたね。ところで普段の生活で絵の具セットと絵筆ってどちらが高いかな？」

すると「この絵筆は特別な高級品なんだと思います。」と答えてくれました。

言うまでもなく算数の力はしっかり身に付けなければなりません。このような発想に「面白い考え方をするな。これはこれですごいぞ。」とちょっぴり感心してしまいました。これからの答えのない時代には特に求められる力のような気がします。

そのまま去るのはさすがに気が引けたのでヒントにあった数直線をつかって一緒に考えました。すると400円と答えを訂正していました。

同じ日の帰りに校庭でその児童に会ったので、「どう、算数好きになった。」と聞いてみました。「ううん。なりません。苦手なんです。」

正直だと感心しました。そもそも、たったの一問だけで苦手を克服できるとはあまり考えられません。

でも、希望はあります。何度も取り組むことです。継続は力。繰り返すことでできるようになります。運動などはこの方法しかないと言ってもよいでしょう。

次の日も、教室を回り子どもたちの成長を見守り続けたいと思います。

(もしかしてそのお子さんはだれかと気になるかもしれませんが、そっとしておいてください。よろしく願います。)

